

うさぎと かめとの話

南方熊楠（みなかた くまぐす）

【子ども向けに書きかえてみました】



1891年、アメリカで撮った南方熊楠

まず、小学生の子どもがよく知っている、うさぎとかめが、かけっこをした話をしましょう。これは「イソップ物語」に出ているものです。（中略）

こんな物語です。うさぎがかめとあったとき、うさぎが、自分はとても足がはやいが、それにくらべてかめは何と足がおそいんだと笑いました。

するとかめは、「そんなに言うのなら、あなたとかけっこをしよう。走る長さは五里（約20キロメートル）、勝った方が五ポンド（イギリスのお金の単位）もらうことにしよう。どちらが勝ったか、この話を聞いているきつねに見てもらおう」と言うと、うさぎはわかったと言いました。

「よいい、どん」でふたりは走り出しましたが、うさぎはもともとすばやいので、たちまち、かめの姿が見えなくなるほど遠くまで走っていききました。

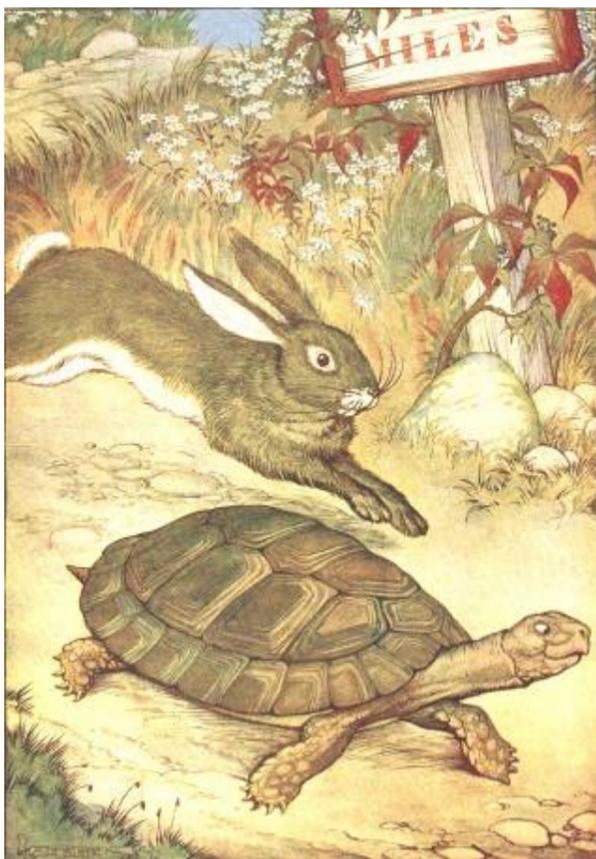
あんまりはやく走ったうさぎは少しつかれたらしく、道のそばにはえているシダの中にすわって、うとうとと眠ってしまいました。

うさぎは耳が長いので、かめが音を立ててそばを通ったら、たちまちはね起きて、もう一度走って、追い抜くつもりでいたのです。

ところが、かめを軽く見ていたうさぎは、眠りすぎてしまいました。

その間に、足は遅いものの、かめは力いっぱいがんばって歩き、とうとう目的地に先に着いてしまいました。

ここでやっとうさぎは目をさましたましたが、そのときにはもう負けが決まっていたました。（文責 三谷雅純）



The Tortoise and the Hare, illustrated by Milo Winter in a 1919 Aesop anthology